

I 教育目標

「基礎・基本の充実」を「質の高い学力」へとつなげるとともに、「信頼される人間力」を育み、社会に貢献できる人間を育成する。

II 学校経営方針（中期経営目標）

「真の自己実現にTRY」をスローガンに、教育目標の具現化に向けたキャリア教育の推進を継続し、生徒の力が「伸びる学校」・生徒の力を「伸ばす学校」を目指す。

本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、希望進路の実現と心豊かにたくましく生きる人間の育成を図る。

- 1 地域・生徒・保護者に信頼され、地域と密着し地域を教育で支える学校として様々な教育活動を展開する。
- 2 キャリア教育の推進を図りながら、前向きな社会生活を営むための職業観を醸成するとともに、生きる力を育み、社会に貢献できる人間力を育成する。
- 3 一人ひとりを大切にしたい厳しくも愛情のある生徒指導を軸に基本的生活習慣を確立し、「自学・自習」の習慣を定着させ、個に応じた希望進路の実現を図る。

III 本年度学校経営の重点目標（短期経営目標）

1 希望進路の実現に向けた学力の充実

- (1) 授業を大切にしたい姿勢と授業規律の確保に努め、基礎学力の定着と学力の伸長をねらいとする各取組の実践を図る。
- (2) 個に応じた適切な指導を行い、わかりやすい授業づくりや学習を支援するために、ICT 機器や学習支援システムの積極的な活用を図る。
- (3) 多面的評価に資する観点別評価を引き続き実践し、新学習指導要領に沿って各科目の指導計画及び内容の研究・実践を進める。

2 生活指導の充実

- (1) 挨拶や身だしなみ等の基本的生活習慣の確立や、SNS、薬物乱用防止、交通安全等の規範意識の醸成に向けて、学校、家庭、地域が協働して指導を行う。
- (2) 各行事や生徒会、部、ボランティア等の活動をととして、自己有用感の高揚を図り、主体的に行動できる態度を育てる。
- (3) 抱える課題の改善や克服、支援に向けて、多くの教員が関わりながら温かく丁寧に指導し、必要に応じて外部機関と連携を図る。
- (4) 「東稜大作戦」等の取組により、生徒と教職員が一体となって、高校生活を楽しみ、生徒の帰属意識と満足度を高める。

3 人権教育の推進

あらゆる場面での一人一人を大切にしたい指導、を通じて多様性の理解および自他の生命と人権を尊重する意識や態度の育成を図る。

4 キャリア教育の推進

本校の各コース・クラスの特徴をより明確化し、クラス間や異学年の連携により職業観の醸成、希望進路の実現につなげる。また、各コース間における有機的な関わりを通じた積極的な「学び」の展開や、「総合的な探究の時間」等を活用しながら、変動の激しい社会に対応できることを目指したキャリア意識の高揚を図る。

生徒に選択と表現の機会を提供し、自ら考え人生を拓く態度を養い、自律かつ自立した生活力を身に付けられる契機とする。

5 その他

- (1) ホームページや学習支援システムなどを活用し、本校の特徴や教育活動の様子、緊急時の対応等の情報を積極的に発信する。
- (2) 会議などの精選、ICT、グループウェアの積極的な活用により、教職員の働き方改革を進める。
- (3) 広報活動を充実させ志願者の確保に努める。

IV 前年度の成果と課題

- 1 臨時休業、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策等により計画の変更や中止はあったが、さまざまな対応により生徒の学習、活動機会を確保することができた。
- 2 学力の定着をねらいとする取組、学力伸長の取組、個々の進路希望に応じた指導による進路実現は概ねできた。生徒の実態に即した目標の設定、指導内容・方法の工夫と改善、発達や心身および家庭環境等の課題に応じた適切な支援を含む指導と評価の一体化が急務である。
- 3 キャリアコースにおいて工夫して外部組織と連携し、他のコースでもキャリア意識の醸成をねらいとした取組を実施することができた。引き続き「総合的な探究の時間」を活用しながら教科横断的、系統的に実施する。また、今後は学んだ内容を生徒自らが発信できる機会をさらに増やしていきたい。
- 4 基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、自他の人権を尊重する意識や態度を身に付ける指導を継続する。
- 5 必要とされる教育的ニーズに対して支援を行うことができた。今年度もより細やかに情報を収集し、適切な支援につなげる必要がある。

令和4年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価			成 果 と 課 題
			中間	最終		
組織運営	スクールミッション・スクールポリシーを念頭にいた教育活動を全教職員の共通認識に基づき、具体的な取組の中で実践する。	会議や資料提供によって情報の共有を図り、必要に応じて積極的な意見交流を行う機会を持ち、教育活動について共通理解を図る。				
		研修会の開催や校外研修会、管外視察等への積極的な参加により、本校の教育活動を随時点検、確認する。				
	本校の今後の方向性や新学習指導要領を踏まえ、地域から信頼されるよりよい学校づくりを实践する。	令和4年度入学生のコースや教育課程の学習内容の検討を行うとともに、組織的に効果的な観点別評価を实践する。				
		各指定事業等を本校の教育活動に位置づけて、効果的な実施を図る。				
学習指導	BYODやICT機器、学習支援システムの積極的な活用を図りながら基礎学力の定着を図る取組を主導する。	義務教育段階の学び直しを含め、基礎学力の定着と発展的内容を両立するために、BYOD や学習支援システムを積極的に利用する。				
		ICT 機器や学習支援システムの活用法を共有するために、教科主任会議等を有効に活用し、実践の機会を確保する。				
	わかりやすい授業づくりのための工夫と各教科の多面的評価に資する観点別評価の研究を一層深め、指導と評価の一体化を確実に実行する。	学習指導と学習評価の一体化を周知・徹底し、確実に実行する。				
		総合的な探究の時間を活用し、生徒が意欲的かつ主体的に取り組む、学習効果が上がる授業手法の研究に努める。				
キャリア教育	キャリアコースの取組を発展させ、すべての生徒のキャリア意識の高揚を図る取組を实践する。	上級生と下級生が協働して取り組む縦断型学習、各分野が連携した横断型授業の推進、充実を目指す。				
		キャリアコースを中心とした本校の特色や魅力、取組を地域に発信し、地域との連携を深める。また、出前授業や学校説明会を通して、中学生に本校のキャリア教育についての周知をはかる。				
	「総合的な探究の時間」を教科横断的、系統的に実施し、協働学習、プレゼンテーション等をとおして主体性を培う。	教科の連携をはかった横断的な取組や各コースの専門性を活かした学年縦割りの取組、地域との連携をはかった体験的な学習等をとおして、主体的な学びに結びつける。				
		プレゼンテーション能力や文章表現能力を身につけることで、生徒自身のキャリア形成の一助とするとともに、自己有用感を身につける。				
人権教育	自他の生命と人権を尊重する意識や態度を身に付ける取組を实践しつつ、教育活動全体を通して人権感覚の涵養を図る。	ホームルーム活動や特別活動を通して、深い信頼関係に基づく人間関係の構築を促す。				
		人権学習や総合的な探究の時間などをきっかけに、自己の行動のふりかえりや他者との意見交流を図り、多様性を認め合う心を育てる。				

生徒指導 特別活動	基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を育成する。	スマートフォン・身だしなみ・遅刻等、生活面での課題において、学年部と連携を図り、段階的に指導する。				
		生徒個々の特性の理解に努め、「教育支援機能」を有し、個に応じた指導をする				
	人権と多様性を尊重する態度を養い、自己有用感の高揚を図る取組を進める。	校則の見直し・東稜大作戦にあたり、人権尊重の観点を柱に生徒と連携しながらルール作りを推進する。 部活動・各種行事の取組を自主的活動と捉え、生徒の自治能力を高め、リーダーを育成する観点で委員会及び種々の会議を開催する。				
進路指導	キャリア意識を高めて、自らの将来を主体的に考えさせる取組を進める。	各学校行事や学期の振り返り時に、ICT 機器を用いてポートフォリオの作成を行っていくことで、生徒自身の自己分析につなげ、生徒のキャリア意識を高める。				
		担任と密に連携し、就職講座では、手厚く適宜個別面談を実施することで、生徒の進路選択のサポートを行う。				
	希望進路の実現に向けて、学力伸長を図る取組と進路別取組を主導する。	進学補習（東稜チャレンジ講座・通常補習等）を有効に活用し、模擬試験に対応した発展的な学力を育てる。 担任・教科と連携し、学力上位層の生徒の情報を定期的に共有し、個別指導を行うことで、組織的に学力上位層の生徒の進路意識の向上と、さらなる学力の伸長を図る。				
健康安全 特別支援	健康に関心を持ち、適切に行動できる知識と態度を身に付けさせる。	健康診断、生活とからだのアンケートの実施。感染症に関する情報を、委員会を通して発信。				
	生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な支援を組織的に行う。	多様な課題を持つ生徒の状況把握し教職員で共通理解し、適切な支援を務める。				
学校 図書館	効果的な教育活動の実践に向けて、図書館の機能の I C T との融合を図り、最大限活用できる体制作りを進める。	学校図書館としての機能をより向上させ、利用者の実態に即した利便向上に努める。				
		生徒の読書活動の推進と図書館の利用を促進するために ICT を活用する。				
施設設備管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	修繕等対応を行った箇所の報告を Classi で配信する。 （Before・After の写真付き）				
		修繕等を行った箇所を、定期的に職員会議等で全職員に伝達する。				
修（就）学 支援	修（就）学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	制度案内だけでなく、書類の提出締切やその後の通知、給付金の振込日程等についても随時 Classi で周知する。				
		担任と家庭状況の情報を共有する。				

学年	【第1学年】 高校生としての自覚と目標を持ち、落ち着いた学校生活を送らせる。 また、学年、学級指導を計画的に行い、自己と他者の関わりを大切に、互いに協力し合って高め合える学年づくりを目指す。	生徒の自己肯定感を高めるため、定期考査や小テスト等の準備をする機会や契機を設定していく。学習チェックシートの記入、きめ細やかな担任面談などを行っていく。 互いの個性を尊重して協力する態度を養うため、四月当初のアイスブレイクや、校外学習、東稜祭などの取組を企画していく。				
	【第2学年】 健康的に自立できる生徒を育成する。健康で、自分のことは自分で考え行動できる生徒を目指す。 全力で取り組むことを大切に、真剣だからこそ楽しめる、お互いのこと高め合える学年づくりを目指す。	担任によるきめ細やかな生徒・保護者との面談、家庭連絡を行う。 校外学習、研修旅行など学校行事を通じ、生徒が自己決定、自己選択できる機会を提供する。 生徒が「ありがとう」「ごめんなさい」を言えるように指導し、人間関係の構築ができるようにする。				
	【第3学年】 進路実現のために、教科担当者、各分掌と緊密な連携を図り、生徒一人一人のきめ細かい指導を進めていく。	担任による生徒・保護者との面談、家庭連絡を丁寧に行い、進路実現に向けて適切な助言を行う。 最高学年として、後輩の手本となるよう、規範意識を持たせる。また、成人年齢引き下げに伴い、社会的責任を意識させる。				
評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
			中間	最終		
国語	生徒の意欲と努力を喚起し、評価する。	生徒の意欲を引き出す導入を行い、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。				
		小テストを定期的組織的に実施し、家庭学習の契機とし、漢字力や語彙力、古典単語力の定着を図る。				
	教員間の連携を深め、共通理解に努める。	生徒の情報共有化し、指導に役立てる。				
		教材や進度の打合せを綿密にし、考査の共通化を試み、観点別の適切な評価につなげる。				
地歴 公民	科目間の連携を深め、横断的な探究学習につなげる。	教科会議を活用し、それぞれの科目の学習状況の把握に努め、魅力的なテーマ設定につなげる。				
		普段の授業から生徒自身が問を立てられるように、導入や発問の工夫を図る。				
	協働学習を充実させ、主体的な学習者の育成を図る。	ICT機器を積極的に活用し、生徒の活動の活性化を図る。				
		取組に対する自己評価と他己評価から自己肯定感を高め、学習意欲の向上に努める。				
数学	分かりやすい授業を実践し、生徒がやり切れるように支援する。	日々の授業の課題やこまめなテストの実施により、基礎学力を定着させる。				
		1年生は中学校の学びなおしを、2～3年生は既習事項の復習を適宜行う。				
	進路実現に向けた取組を計画的に行う。	模擬試験などの事前指導、事後指導を充実させる。				
		進路希望に沿った長期休業中補習・平常補習を充実させる。				

理科	日々の授業の学習規律の向上に努め、視聴覚教材の利用、実験の導入など、興味付けを行いながら基礎学力の定着を図る。	授業における指導状況の情報交換に努め、課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。ICT 機器の積極的な活用（特に実験時）を図る。				
		学習課題、小テスト等を実施し、学習内容の定着を図る。また、課題、テストにおいて、できたという肯定的な感覚を持たせる指導を行う。				
	理系の進路指導の助力となるよう、教科の発展的指導に努め、個々の希望に応じた適切な進路学習指導を実施する。	大学との連携事業を計画的に実施し、教科指導、進路指導に役立てる。				
		進路補習において、個々の希望に応じ、充実した補習になるように努める。				
保健 体育	生涯にわたって健やかな身体を養うための実践力や知識を身につけるとともに、自らの健康を管理し、改善できる資質能力、態度の向上を図る。	健康作づくりのための運動の大切さを理解させるとともに、体力づくりを実践する。				
		ルールやマナーを守り安全に配慮すること等により、体育の授業をより円滑にそして安全に参加し活動させるための心構えを身につけさせる。				
	キャリアコースライフスポーツの講演（講義）や実習の内容をより一層充実させる。	生涯スポーツ、体育特講、総合的な探究の時間の各授業内容を工夫し、学年を超えた縦の繋がり強化を図る。				
		外部講師の活用を充実させ、内容の整理を図りながら、より質の高い取り組みを実施し、専門種目の技術向上に繋げる。				
芸術	基本的な授業態度を定着させる。 作品を完成・発表させるまでの過程・工程の自主的思考力・判断力を建設的に身に付けさせ、自己有用感をもたせる。	授業を大切にさせ、授業規律を守らせることで、生徒が安心して受けられる授業を展開する。				
		単元毎に、生徒が自主的に考え、行動できていることを評価する。また、その評価の積み重ねることで、生徒の情操感や達成感を育む。				
	作品を完成・発表させるまでの過程・工程の自主的思考力・判断力を建設的に身に付けさせ、自己有用感をもたせる。	時間をかけて取り組む過程を大切にし、作品を愛する心や情操感を養う。				
		作品の完成や発表だけでなく、取り組む過程・工程等、生徒が自主的に考え、行動できていることを評価する				
英語	英語の基礎的な知識の定着を図る。	学び直しによって、早期に生徒の躓きを把握する。				
		提出物や小テストを利用し学習習慣を確立させるとともにICT 機器を活用し、わかりやすい授業や学習支援を行う。				
	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	パフォーマンステストや Team Teaching を活用し、4 技能の統合を目指す取り組みを定期的・継続的に行う。				
		GTEC を活用し、生徒の学習意欲や学力の向上を図る。				
家庭	社会と家庭生活に目を向け、主体的に生活の充実と向上を図る。	主体的に生きる生活者として、必要な知識と能力を身につけることを目標に、実験・実習を取り入れる。				
		自分らしい生き方について考え、生徒自身が主体的に考える力を育てる教材を工夫する。				
	学習規律の向上に努め、授業への集中力を高め学習内容の定着を目指す。	授業を大切にする学習姿勢について指導し、基礎学力の定着を図る。				
		視聴覚教材を工夫し、授業への集中度を高めさせる。				

情報	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法について、理解を深め技能を習得させる。	問題の発見・解決に向けて様々なアプリケーションソフトを取り扱いながら情報活用能力を高める。				
		主体的・対話的な活動を取り入れる。				
	情報社会と人との関わりについて理解を深め、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	図解を利用しながら、情報社会に積極的に興味・関心を持てるように指導する。				
		実践的な学びになるように指導内容を工夫する。				

学校運営協議会による評価	
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--